



Welcome to
Nagasaki

Nagasaki
"SARUKU"
Course Map

Area
08 平和エリア

Welcome to
Nagasaki
Nagasaki
"SARUKU"
Course Map

Area
08

"Peace"

被爆遺構をめぐりながら
平和を希求する



長崎さるくコースマップ
平和

さるくコース/1 "SARUKU" Course/1 原子野に思いをはせて
さるくコース/2 "SARUKU" Course/2 アンゼラスの鐘の丘を訪ねて
さるくコース/3 "SARUKU" Course/3 被爆校舎で耳をすませば



P 公共駐車場 WC トイレ(車いす専用なし) WC トイレ(車いす専用あり) WC トイレ(車いす専用及びオストメイトあり) ※トイレ表示協力(長崎「マーズ」グループ)実行委員会

長崎流まち歩き「さるく」は3タイプ

「さるく」とは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁。このマップを入手した瞬間から自由に歩く「遊さるく」以外にも、ガイドがご案内する「通さるく」、長崎ならではの体験メニュー・長崎を味わう「学さるく」を好奇心おもむくままにご参加いただけます。

- 遊さるく** 長崎「遊さるく」→ 自由気ままに長崎散策
- 通さるく** 長崎「通さるく」→ 長崎名物ガイドツアー(予約制)
- 学さるく** 長崎「学さるく」→ 長崎ならではの体験する(予約制)

「通さるく」「学さるく」の申込方法

ご予約申込先は2つの方法

ホームページ

さるく **検索**

<http://www.saruku.info/>

電話 **095-811-0369**
受付時間/9時~17時半(12/29~1/3休)

コースによって内容や料金が異なります。
詳しくは、「長崎さるく」のホームページ又はパンフレットをご覧ください。電話でお問い合わせください。

長崎さるくナビ **無料**

長崎さるくの人気コースがアプリになったよ！地図に従って散策すれば音声案内が長崎の魅力を発信。ゆかりのある古写真や、近隣のショップも紹介。トイレの場所も教えてくれるよ。

iPhone・iPadをお持ちの方

- App Storeで「長崎さるくナビアプリ」を検索
- アプリ詳細説明画面で「Appをインストール」ボタンを押してください。

Androidをお持ちの方

- Google Playで「長崎さるくナビアプリ」を検索
- アプリ詳細説明画面で「インストール」ボタンを押してください。

●お問合せ/長崎国際観光コンベンション協会
電話/095-811-0369

※データはすべて平成30年3月末現在のものです。

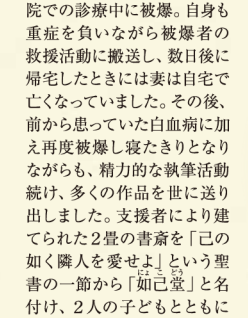
平和エリアのキーパーソン

The key person of Area of the Peace

原爆が落とされたエリアは、くしくも、多くのキリシタンが世代を超えて信仰を守ってきた地域でもあります。



角尾 晋
Tsunoo Susumu
明治25年(1892)-昭和20年(1945)
被爆当時の旧長崎医科大学学長で、東京出張の帰りに広島原爆に行き合わせます。原爆投下翌日の広島街を徒歩で横断し、その惨状を目の当たりにしました。ようやく長崎に戻り、8月8日の大学の朝礼で広島原爆を語り注意を喚起しますが、翌9日には自らも大学病院での診察中に被爆、広島での入市被爆に続いて二重被爆者となりました。自らも重傷を負いつつ生存者の救出や避難誘導にあたり、急性放射線障害により8月22日に死去しました。



永井 隆
Nagai Takashi
明治41年(1908)-昭和26年(1951)
旧長崎医科大学(現長崎大学医学部)放射線学の教授で敬虔なカトリック信徒でもあった永井隆博士は大学病院での診療中に被爆。自身も重症を負いながら被爆者の救済活動に搬送し、数日後に帰宅したときには妻は自宅で亡くなっていました。その後、前から患っていた白血病に加え再度被爆し寝たきりとなりながらも、精力的な執筆活動続け、多くの作品を世に送り出しました。支援者により建てられた2畳の書斎を「己の如く隣人を愛せよ」という聖書の一節から「如己堂」と名付け、2人の子どもとともに暮らし、昭和23年(1951)に43歳の若さでなくなります。

写真/永井隆記念館提供

福田 須磨子
Fukuda Sumako
大正11年(1922)-昭和49年(1974)
23歳で師範学校勤務中に被爆した福田須磨子は、戦後、復興に急ぐ長崎のなかにあって、被爆者の思いを訴える文章を新聞などに次々発表していきます。昭和44年(1969)には「われなお生きてあり」で田村俊子賞を受賞。「生きていることだけでも原爆に対する抵抗だ」とさまざまな病魔と闘いながらも創作活動を続けましたが、昭和49年に52歳で死去。原爆落下中心地公園には彼女のしのお詩碑があります。



ヨハネ・パウロ二世
John Paul II
1920-2005

第264代ローマ教皇。ポーランド出身。世界平和と戦争反対の呼びかけのために世界各地を飛び回る行動派で「空飛ぶ教皇」という異名もありました。日本へは、昭和56年(1981)に訪れ、東京、広島、長崎を歴訪。浦上天主堂や松山陸上競技場でも、大雪舞い散るなか、ミサを行いました。禁教時代、「いつの日かローマのババ様よりお使いがくる」と言い伝えられてきた信者の夢が、ついに叶った瞬間でした。浦上天主堂には教皇の胸像があります。

写真/カトリック長崎大司教区提供

爆風50%、熱線35%、放射線15%。これが、長崎に投下された原子爆弾のエネルギーの内訳です。プルトニウムなどの核分裂性物質が核分裂するときに発生するエネルギーで、高性能爆薬の21キロトンに相当します。爆風は台風の数倍、熱線は地表で3,000℃~4,000℃以上の高温と推測されます。そして人間の機能を犯す放射能。爆発の際は、これらが複雑にかみあって長崎の街に甚大な被害をもたらし、中心から1キロ以内の死亡率は実に88%というデータが残っています。

長崎に落とされた原子爆弾の威力



原爆は、現在の原爆落下中心地碑の上空約500メートルで炸裂しました。この高度は、もっとも広い範囲を効果的に破壊するために計算された爆発高度。これより低いと、エネルギーが地面にぶち当たり、地表をえぐることになります。

長崎原爆資料館には、長崎に投下された原爆の原寸大レプリカの展示のほか、現在、世界中で保有されている核兵器の具体的な情報、核兵器をめぐって世界情勢なども学べるようになっています。この機会に、核兵器について、じっくり考えてみましょう。



Column

読んでから歩かか、歩いてから読むか

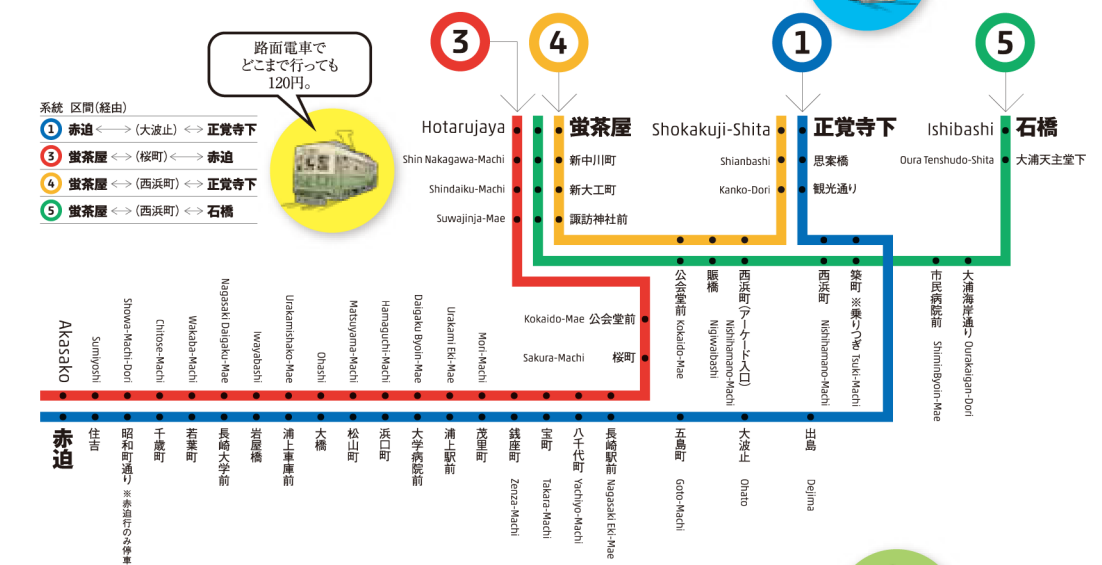


爆爆の実相と、今、目の前に広がる復興した平和な街。普通に生活している長崎の人々。そのギャップに戸惑う人は、少なくありません。そこでおすすめしたいのが、原爆文学とよばれる一連の小説や、記録集。市井の人々の日常生活を書き綴り、原爆投下の直前で終わる井上光晴の「明日」や、自身の被爆体験と時間経過を追った林京子の芥川賞受賞作品「祭りの場」などの作品があります。いずれも、写真や映像、個々の資料ではなかなか浮かび上がってこない被爆者の思いや葛藤が、当時の状況と合わせて読み取ることができます。これら原爆の関連図書は原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の一角にも並べられ、その場で読むこともできます。

また、現代の長崎を舞台に、爆心地周辺の人々の生活の断面を切り取った短編小説の連作が、長崎出身の作家、青来有一の「爆心」。伊藤整文学賞と谷崎潤一郎賞をダブル受賞しており、平成25年(2013)映画化もされています。



路面電車/路線案内



運賃(全線均一) 大人 / 120円 小児 / 60円
電車一日乗車券 大人 / 500円 小児 / 250円

●お問合わせ/長崎電気軌道(株) ●電話/095-845-4111

※築町で、車内においてのりつぎ券を発行します。
●電車一日乗車券は総合観光案内所(JR長崎駅構内)、市内主要宿泊施設などで販売しております。
(電車内での販売はございません。)



Area of The Peace

平和エリア

原爆の実相を伝える貴重な被爆遺構が点在。間近に触れながら、失われた命や平和の尊さを実感できます。



Around Sakatomomachi

1 長崎大学の被爆建築物

坂本周辺



11時22分を指して止まった柱時計

長崎原爆資料館

被爆の実相と平和の尊さを訴える貴重な資料

ゲートを入ると、暗がりに廃墟が広がります。ここでは被爆直後の長崎の街を再現。当時の惨状に思いをさせながら展示フロアへと導かれます。原寸大の爆弾模型、原爆の

規模がわかるジオラマのほか、原爆の威力や恐ろしさが刻まれた多くの遺物、核兵器の脅威がわかる最新資料などが展示されています。

- 開館8時半～17時半(5月～8月は～18時半)
- 休館日 12月29日～12月31日
- 入館料大人200円、小中高校生100円
- 095-844-1231



Spot 2

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

追悼空間の光の柱に息をのむ

平成15年(2003)、国により設置された原爆死没者の追悼と平和祈念のための施設。地下に広がる追悼空間には、原爆死没者の名簿が納められており、空に向かって12本の光の柱が伸びています。一面には被爆関連の情報収集機能をもつコーナーや、交流フロアもあります。地上を覆った大きな水盤には7万もの光ファイバーの追悼の明かりがとります。

- 開館8時半～17時半(5月～8月は～18時半)
- 無休
- 入館無料
- 095-814-0055

●このマップは「さくらマップ制作委員会」で制作しました。おすすめポイントやショップもチームで検討してピックアップしたものです。
●施設の開館時間は通常の場合作、年末年始、季節によって変動あり。 ●データはすべて平成30年3月末現在のものです。

山里・浜口町原爆殉難者慰霊碑

浦上村庄屋高谷家の分家が邸内に祀った祠で、神功皇后伝説も残っています。一帯は被爆前は閑静な住宅地でしたが、500メートル圏内という近距離で原爆が落下したことから、町内にいた人のほとんどが即死しました。境内には、山里・浜口町原爆殉難者慰霊碑が建てられています。

Spot 4

国立長崎大学 坂本キャンパス (旧長崎医科大学)

世界唯一、被爆を経験した医科大学

長崎大学坂本キャンパスは、かつては長崎医科大学でした。爆心地から約600メートルという至近距離にあったため全壊全焼し、学生・教職員890名あまりが死亡しました。敷地内には、爆風で傾いたままの旧医科大学の正門柱、被爆建築物「旧配電室」が保存され、被爆の実相が学べます。また、敷地奥の熱帯医学研究所隣には「原爆医学資料展示室」があり、原爆後障害医療研究所による原爆の医学的影響に関する資料や記録集、血染めの白衣などの展示物が一般公開されています。

図書館そばには、被爆当時の角尾晋学長や懸念に救助活動を行った古屋野宏平の胸像もあり、幕末のオランダ商館医ポンペを始祖とする歴史と医療者の熱い思いが、今も受け継がれています。

Spot 5

山王神社と大クス

原爆投下の2ヵ月後には新芽が

原爆当時、境内の樹齢400年以上という大クスも爆風と熱線を受け、枯死すると思われていたのですが、被爆2ヵ月後には、新芽が芽吹き、うちひしがれていた住民に大きな希望と勇気を与えました。その後高齢化による傷みがか配されましたが、樹医による大がかりな修復を経て、青々とした葉をたたえています。被爆時にできた洞の中がのぞけるよう、登り台も設置されています。



Spot 6

山王神社二の鳥居 (一本柱鳥居)

シンボリックなその姿

原爆中心地から800メートルの位置にあるこの鳥居は、爆風で笠石がねじまげられ、爆心側の半分が倒壊、残った片方が一本柱のまま立っています。よく見れば、柱の爆心側は石の表面が剝離して刻まれた奉納者の名前も読み取りにくく、熱線のすさまじさを物語っています。被爆直後の惨状のなかで、この半分だけが残った鳥居が立つ写真も残されています。

Spot 7

平和公園周辺

被爆当時の地層

一瞬にして消え去った生活の断片

今の原爆落下中心地帯は、2メートルかさ上げしています。そこで、その土の下に埋もれているのが見られる地層の展示がこちら。ガラス窓の向こうには茶碗やガラス瓶、瓶の折れたベンチなど、日常の生活用品が眠っています。瓦の表面がぶつぶつと泡立っているのは、被爆の瞬間に2,000℃以上の高温に照射された証。すぐ目の前にもも流れる「下の川」の水面には、当時たくさんのお客さんが水を求めて折り重なるように亡くなっていたのだそうです。

Spot 8

原爆落下中心地碑

4代目の石柱が立つ「爆心」

昭和20年(1945)8月9日午前11時2分。この黒い石柱の上空約500メートルで、原子爆弾が炸裂しました。中心から1キロメートル以内の死亡率は88%。この年の暮れまでの統計によれば73,884名が死亡しています。爆風で吹き飛ばされたりなぎ倒された木や電柱が周囲に多いなか、この地だけが立っているものが残っており、文科省の調査団が爆心と決定。スレート製の煙突の破片に、消し炭で「爆心centre」と書いた標識が建てられ、その後何度か建替えられ、現在のものが4代目です。

Spot 9

松山町防空壕跡

町内で掘った小さな防空壕

現在平和公園になっている丘は昔からありました。当時は上に事務所があったことから「刑務所の丘」と呼び、その段差の崖を利用して町内会で数か所の防空壕を掘っていました。原爆当時は警報解除中だったため、町民は防空壕に避難しておらず、ほとんどが即死してしまいました。しかし、たまたまこの崖下の防空壕の一つで遊んでいた9歳の少女が助かり、町内唯一の生存者となりました。平和公園の再整備の際、防空壕跡が発掘されたことから、現在では保存され、外から見ることができます。

Spot 10

平和公園

平和祈念像が見守るおだやかな公園

毎年8月9日の長崎原爆の日には、この場所で行われ、長崎市長が全世界に向けて平和宣言を発表します。平和の象徴である鳩が飛び交うなか、平和の泉や各国から寄贈された平和モニュメントが点在し、原爆により倒壊して134人全員が死亡した長崎刑務所浦上刑務支所の遺構も保存されています。すべてを見下ろして鎮座している平和祈念像は、長崎出身の彫刻家北村西望作。両サイドには訪れた修学旅行生などが千羽鶴を納める「折鶴の塔」があります。また国道からの長い登り階段は近年エスカレーターが取り付けられ、上りやすくなりました。

Spot 11

市立山里小学校 (山里国民学校跡)

「あの子らの碑」と防空壕

爆心地から北へ約600メートルの旧山里国民学校。原爆が落ちた8月9日は夏休みで学校には子どもは登校していませんでした。しかし、校区内の児童1,581人のうち約1,300人、教師28人が亡くなっています。今は市立山里小学校となっており、一面には永井隆博士ゆかりの「あの子らの碑」が建てられ、元気に遊ぶ子どもたちを見守っています。校舎の裏手の崖には、当時の防空壕も保存されています。

Spot 12

永井隆記念館 (如己堂)

永井隆博士の「長崎の鐘」はここで

「この子を残して」長崎の鐘の作品を執筆した永井隆博士は、白血病と闘いながら、この如己堂で暮らし、昭和26年(1951)に亡くなります。命をかけて平和を希求しつづけた作品の多くはベストセラーとなり、一部映画化もされて今も多くの人々に感銘を与えています。記念館では、博士の遺品や写真が展示され、その生涯をたどることができます。

- 開館 9時～17時
- 無休
- 入館料 一般(15歳以上)100円
- 095-844-3496

Spot 14

市立城山小学校 (城山国民学校跡)

祈念館として甦った被爆校舎

爆心地から500メートルという至近距離で被爆した城山国民学校は、鉄筋コンクリート造3階建て、1,500人の児童が通うマンモス校でした。しかし被爆により大きな亀裂が入り、校内にいた教職員28人や校舎の一部を使用していた三菱兵器製作所の職員と動員生徒ら111人、校区内の児童1,400人が死

亡。翌年の卒業式に参加できた卒業生は、わずか14人でした。被爆校舎の一部は遺構として保存され、児童の発案で平成11年(1999)、平和祈念館として生まれ変わりました。敷地内には嘉代子桜や少年平和像があります。

- 平和祈念館の土日祝日の見学は、2ヶ月前までに申込みが必要。




かつて東洋一の規模といわれた赤レンガ造りの浦上天主堂。禁教時代に信仰を守り通したキリスト教信者たちの信仰の証でもある美しい聖堂は、原爆により無残に破壊された。この地区に住んでいた信徒約12,000人のうち約8,500人が爆死したといわれています。朝夕、アンゼラスの鐘を響かせていた2つの鐘楼のうち、左塔のドームは爆風で落下し崩落しました。これは今もその状態で保存されています。右塔の鐘は奇跡的に瓦礫のなかから無傷で発掘されました。現在の天主堂は、昭和55年(1980)に再建され、当時のままの鐘の音を聴くことができます。また、入口両脇には被爆した旧天主堂のマリア像とヨハネ像が安置されています。

- 開館 9時～17時
- 無休
- 095-844-1777

Welcome to Nagasaki

Nagasaki "SARUKU" Course Map

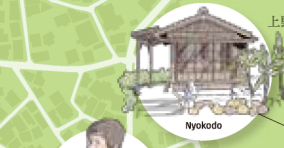
長崎さるく説明表

- 白山墓地
- 東洋一の教会「浦上天堂」
- 浦上天堂
- 二十六年聖人が歩いた道
- 浦上四番崩れ
- 鐘心地の松山町交差点
- ポンベ、松本長期
- 旧長崎医科大学付属病院付近の惨状
- 福田須磨子宅跡

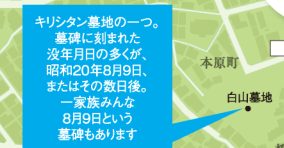
昔のまちなみや長崎ゆかりの人物の写真等で往時を偲ぶことができます。
4カ国語表記(日・英・中・韓)

●本原自動車学校

2 さるくコース/2 アンゼラスの鐘の丘を訪ねて



聖フランシスコザベリオ堂跡。信徒発見を機に設けられた4つの秘密教会の一つ。これらの教会での信仰行為が見つかり、浦上四番崩れに発展しました。



キリシタン墓地の一つ。墓碑に刻まれた没年月日の多くが、昭和20年8月9日、またはその数日後。一族みんな8月9日という墓碑もあります。



ハートス様の墓。浦上キリシタンに伝承される聖地。この地で3人のキリシタンが殉教しています。

1 さるくコース/1 原子野に思いをはせて

この道を行く江平経由の長崎バスは、途中で離合待ちするほどの細い坂道を登って行き、ある意味スリリング。長崎のドライバーの腕の良さを実感できる路線。

被爆直後、医大関係者により重症者が運び込まれたくびろヶ丘。現在は慰霊塔が建てられています。

原爆医学資料展示室。リニューアルされ、映像も見られます。隣には別棟にあった熱帯医学ミュージアムも移転されました。入場無料。かな見応えあり。

長崎大学坂本キャンパス(旧長崎医科大学)の歴史を辿ります。角尾学長銅像、隣に古屋野教授像、シーボルトの記念碑などが並んでいます。

浦上キリシタン資料館。平成26年(2014)開館。「浦上四番崩れをはじめとする浦上の隠れキリシタンの歴史資料や教会資料が展示されています。入場無料」

平和の泉。正面の黒い碑には「嗚が濁りて、たまりません」で始まる、当時9歳だった少女の手記の一節が刻まれています。

被爆者の店。毎日、原爆が投下された11時2分になると「原爆許すまじ」のメロディが流れます。

旧長崎医科大学付属病院慰霊碑。被爆した病院のテラスの手すりに施されていた医科大学の校章を中央にはめ込んでいます。

山王神社と大クス。山王神社の鳥居(一本柱鳥居)は、被爆後、瓦礫のなから発見された。当時の写真も見られる。

被爆後、病魔と闘いながら創作活動を続けた詩人・福田須磨子宅跡。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館。長崎の歴史・民俗資料ほか、中国やポルトガルとの関係資料あり。

被爆当時の地層。原爆落下中心地公園。原爆落下中心地碑。

この一部は駒場町で被爆当時の230世帯はすべて死亡。遺骨収集もままならないまま、進駐した米軍により簡易飛行場「アトミックフィールド」が建設されます。その後昭和24年(1949)国際文化都市建設法により一部はスポンジ施設に。陸上競技場にはベースも点在し遊歩道もあります。

被爆者の店。毎日、原爆が投下された11時2分になると「原爆許すまじ」のメロディが流れます。

被爆者の店。毎日、原爆が投下された11時2分になると「原爆許すまじ」のメロディが流れます。

被爆者の店。毎日、原爆が投下された11時2分になると「原爆許すまじ」のメロディが流れます。

坂本国際墓地の一面には永井隆博士の墓があります。告別式には1万人の市民が参列しました。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。

浦上天堂。原爆の爆風で落下した左塔の鐘楼ドーム。